

## 令和3年度 2学年「ヒューマン基礎」授業報告

◎ 4月20日(火)

「オリエンテーションおよび進路実現について」

担当:本校教員

◇今年度実施の年間計画の確認と概要説明等を行った。

《生徒の感想》

今日の総合ヒューマン類型オリエンテーションを通して改めて発見したことや、決意したことがありました。自分を見つめ直すプリントで自分の夢や希望を叶えるために、高校時代に何を準備するかという問いに対して、今の私はこれからの進路先をどうしようというきもちでいっぱいだったからです。まだ決められていない自分に対しての不安と焦りを感じました。しかし、よく考えてみれば今の私ができることは平日頃からの勉強、入試に必要なとされる評定平均をとることだと思います。先生がおっしゃっていたように、評定平均が0.1でも足りなければ受験することすらできないのはすごく残念なことだと思います。一生後悔するより、今できることに対して全力で取り組み、希望進路の選択を広げていきたいと思っています。

今のクラスになってだいぶ慣れてきました。最初は本当に不安でしたが、みんなとこれから将来に向かって頑張るのだと思うと楽になれた気がしました。総合ヒューマン類型のように自分の将来について学べる素晴らしい類型は他にないと思うので、ヒューマン類型に入学できて本当に良かったなと思いました。これから毎週講義があって大変だと思いますが、自分の将来・未来のために頑張ろうと思います。私はレポートを書くのが正直苦手でした。しかし、回数を重ねるごとにだんだんスラスラ書けるようになってきて、今では苦手でなくなりました。これから毎週書かないといけなくて、文法の力を伸ばさないといけないと思っています。2年間この仲間と共に将来に向かって一緒に頑張りたいから、みんなと話して仲良くなりたいと思います。

私はこのヒューマン類型の講義や授業、校外学習などを通して様々な能力を身に付けていきたいです。更に自分について見直していきたいと考えています。自分の長所を5つ書く今日配られたプリントで、私はすぐに書くことができませんでした。自立しているかなどの質問にもうまく書くことができませんでした。これは自分のことについて理解していないからだだと思います。自分のことは自分が一番分かっていないといけなくていいことだと思います。何ができて、何ができないのか、自分についてしっかりと見直していこうと思います。私はボランティアなどにも参加したいと考えているので、自分から進んでやるということを大事にしていきたいです。

毎週いろんな大学の講師の方が来て話をしてくださるので、自分が希望している職種以外のことも、しっかりとメモをとり、分かりやすいようにまとめていくということを平日頃から心がけようと思います。職種によって学ぶ分野が違ったり、求められる人材が異なったりすると思いますが、最終的にどの職業を選んで困ることがないように幅広い知識を身に付け、自分の長所を1つでも多く増やしていきたいと思っています。学んでいくことは勿論大切ですが、いい人間関係を築くこともそれと同じくらい大切なので、私の長所の“誰とでもすぐに仲良くなれる”ということを手早く活用しながら、お互いに支え合っていきたいです。

1年生の時から総合ヒューマン類型で実習・特別講座・大学見学などをさせて頂いて、多くの刺激を受けました。私はコロナウィルスが流行して、改めて将来を見つめ直し、本当に進みたいと思える進路が何なのかを考えました。私は大学に行って色々なものの勉強がしたいと思いました。現在は4年制の文系大学に行きたいと考えています。しかし、この2、3年で多くの講座やいろいろな人の話を聞いて、進みたいと思う道が変わるかもしれません。私は進路決定ギリギリでいきたい学校が、もし変わっても対応できるように、高校2年の今から大学受験に向けて勉強していくよう取り組んでいきます。私がヒューマン類型が目標としている看護・保育などの大学・職業に就かなくても、この高校3年間で学ぶヒューマンの授業は生きていく上ですごく大切なものになると思います。

2年生になって1年生の時の自分を思い返すと、とてものんびりしていて、このままではだめだと思いました。2年生になりヒューマン基礎の授業が始まり学ぶことが更に多くなりました。しかし、それを言い訳に何かができないとか、時間が足りないなどと言わないようにしていきたいです。1年生より2年生、2年生より3年生と日々成長していけるようにして、将来の夢を叶えていきたいです。

◎ 4月27日(火)

## 「まわし読み新聞」を作ろう

担当:本校教員

- ◇気になる新聞記事を班員で集め、「まわし読み新聞」を作成する。
- ◇新聞を通して「主体的・対話的で深い学び」を実践する。

### ≪講義の様子≫



### ≪生徒の感想≫

普段新聞を読むことがあまりないけれども、こうやって読んでみると様々な記事があって、面白いと思いました。テレビのニュースも見ることが少ないので、これから入試で面接などもあるので、これを機に見る回数を増やしていこうと思います。自分1人で記事を読むのではなく、グループの人たちと一緒にやることで、同じ記事でも目を付けるところが違ったり、感じ方も様々であったり、新しいことがたくさん分かって勉強になりました。「まわし読み新聞」は時間がかかりましたが、最終的に良い感じに仕上げることができました。

今回「まわし読み新聞」を作ったことは2つあります。1つ目は仲間と協力する大切さです。「まわし読み新聞」を作る上で大事なことは班員の1人1人の意見を取り入れて、いかに読みやすいように作るかが「カギ」になると思いました。そのためには仲間と協力しないとできないということがわかりました。に頑張りたいため、みんなと話して仲良くなりたいと思います。2つ目は時間内に作り上げる大切さです。新聞の内容を凝ることは大事なことだけど、時間内に終わらせなかったら意味がありません。この先レポートなどを時間内に書き上げなければならないという状況があると思うので、今から練習をして時間内に終わらせる努力をしようと思いました。

「まわし読み新聞」を作っている時はとても楽しかったです。班の人が新聞から切り取ってきた記事の中に興味深いものがたくさんあって、とても楽しかったです。この「まわし読み新聞」はとても素晴らしいものだと思います。一目見るだけで、誰がどんな意図でこの記事を選んだのかわかりやすく、人の趣味などもわかり、その記事から話が発展していくことができるかもしれません。

私の家では新聞をとっていますが、しっかりと記事を読んだことはほとんどありませんでした。今回の授業の中で新聞を読むことができ、いろいろなニュースがあることがわかりました。気になる記事を探している中で、特に興味をもったのは、新型コロナの影響でマスク着用・手洗いの徹底がされていて普段なら流行しているはずのインフルエンザが流行していないというニュースです。1年生の時は講義を聞くということがほとんどだったので、今回グループに分かれて1つのものを作る作業はすごく楽しかったです。あまり話すことができていなかった人とも話すことができ、とても良い機会になりました。今回「まわし読み新聞」を作って、せっかく家で新聞をとっているのだから、最近のニュースを知るためにも少しずつ読んでいこうと思いました。

◎ 5月11日(火)

「保育講義&実習」

担当: 甲子園短期大学幼児教育保育学科

堀田 浩之 先生

- ◇子供人口の減少
- ◇幼稚園と保育所の違い、資格について
- ◇認定こども園
- ◇遊びを通しての学び、絵本について

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義では昔自分もやっていた手遊びが出てきて、自分が思っていたのとは違う意味だったものや、実際にやってみて今でもできるかどうか怪しいものがありました。「むすんでひらいて」は伴奏なしでも遊ぶことができるのが良いところだと思いました。この曲は18世紀の教育者ルソーが作曲したことを聞いて驚きました。日本人ではない人が作った古い曲が、今でもいろんな人に知られ、受け継がれてきたことが不思議に思いました。「はじまるよ」や「ひげじいさん」はただ楽しく遊んでいるだけではなく、子ども達を引きつけることができることを知りました。また、アレンジをしたりして、同じ曲でもいろいろなパターンで遊ぶことで、子ども達の興味や楽しみが増えることがわかりました。手遊びは小さい子ども達だけではなく、リハビリとして福祉の現場でも使われていることを聞いて、保育は福祉にも繋がりがああることを知りました。

今回の講義で多くのことを学ばせていただきました。一番強く思ったことは子どもの成長がすごいことです。手遊びや歌を使って、多くの知識を学んでいるということです。私は小さい頃たくさん手遊びや歌を教えてもらいましたが、いろんな意味があるなんて全く思っていませんでした。将来私が保育士になった時に、子どもをどう楽しく教えるかを考えていきたいと思えます。

久しぶりに保育の講義を受けました。私は将来保育の仕事に就きたいので、たくさんの新しい知識を得ることができたので良かったです。講義を受けたその日、帰宅してから自分が昔描いていた落書き帳を見ました。0～3歳くらいまでは、大きい丸や小さい丸、点々や長い線・短い線などたくさん描いてありました。じーっと見ていると、少し顔に見えてくるようなものばかりで、おもしろかったです。3歳～幼稚園に通う頃までの時期になると、人の顔もちゃんと目が2つあって、口がしっかりと描いてありました。その後だんだん髪の毛が生えてきて、髪飾りや可愛い服を着ている絵を描いていて、見ていておもしろかったです。

◎ 5月18日(火)

「介護予防 ～福祉レクリエーション～」

担 当: 履正社医療スポーツ専門学校

逢坂 幸右 先生

◇高齢者がレクリエーションをする上での注意

◇レクリエーションの実施

◇介護予防について

≪ 講義の様子 ≫



≪ 生徒の感想 ≫

今回の講義は参加型のレクリエーションを行い、いつもと違ったことを学ぶことができました。介護に必要な力や性質を、高齢者の方の立場となって考えることができました。以前私は介護施設で1週間の職場体験をしたことがあり、今回の講義で気付いたことがたくさんありました。体操やレクは脳の活性化に効果があること、1人1人と会話していたのはコミュニケーションを取って笑ったりすることでいろいろな効果があることがわかりました。以前は深く考えていなかったのですが、改めて学ぶことで、より介護という職業に興味をもつことができました。

逢坂先生の講義を受けてわかったことが3つあります。1つ目は、レクリエーションは脳のトレーニングに効果があるということです。私達が体験したじゃんけん(片方の手は負けてもう片方の手は勝つ)は簡単にできて良かったです。また、1対複数なので親交が深まりやすくなるということがわかりました。2つ目は、レクリエーションは人との関わりを深めることができるということです。ペアでのレクリエーションは楽しく頭も使ってできるので良かったです。4人でのグループワークではあまり話したことがない子とも話せたので良かったと思いました。3つ目は、手と足を同時に別々に動かす運動は様々な能力の発達に役立つことです。実際動いてみて、思ったより難しくて苦戦しました。しかし、できた時の達成感が大きくて、やっていた楽しかったです。

今回の福祉レクリエーションを通し、介護福祉士さんの仕事について深く考えました。介護福祉士さんはただ単純に高齢者の身の回りの世話をするという仕事だけでなく、高齢者にとってよりよい人生を楽しんでもらえるようなサービスを提案します。例えば、利用者さんとコミュニケーションをとったり、利用者さんだけでなく、家族との信頼関係も求められたりします。コミュニケーションをとるために、利用者さんの性格を理解し、利用者さんに対してどのような対応をとれば気に障ることなくコミュニケーションがとれるのかなどを考えることも重要です。普段から利用者さんの体調管理をし、表情や行動・言動などの何気ない変化に対して臨機応変に対応できるのかが必要とされます。介護福祉士になるために必要なことは常にアンテナを張っておき、相手の立場について考えることだと思います。これらはどのような仕事に対しても必要とされますが、介護福祉士の仕事にはより一層深く求められると思います。人のために役立つ介護福祉士の仕事を深く学ぶことができ良かったです。

◎ 5月25日(火)

「コミュニケーションと手話Ⅰ」

担当:伊丹市聴力障害者協会

北村 明子先生

伊丹市登録手話通訳者

山内 滋子先生

- ◇聴力に障害が出る原因
- ◇聴力障害者とのコミュニケーションの方法
- ◇指文字・手話の実習

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回の講義を聞いて、「手話」や「指文字」などは覚えるべきだと私は思います。理由は将来使うことがないかもしれませんが、覚えていて損することでもないからです。私は小学校の時から聴覚障害者の人が居たので、指文字は元々知っていたし、手話は日常程度のものができるレベルでした。しかし、高校に入学後、全く使っていなかったため、少し忘れていた部分がありました。私は空書や筆談よりも、指文字や手話を使い更に口元も動かすことが、普段私達がしている「会話」の状態に近いと思います。今回講義をしてくれた方々は本当に見た目だけでは判別できないし、私達が聞いても聞き取りにくい発音もなかったため、本当に聴覚障害者なのかと疑うほど違和感がありませんでした。先生は「おはようございます」という一動作だけでも、すごく嬉しいとおっしゃっていたので、私も実践していきたいと思います。

私は初めて聴覚障害者の方と話しました。北村さんは手話で話しながら、私達がわかりやすいように話しながら講義をしてくださいました。とてもニコニコしながら接してくれたので、話していてとても楽しかったです。小学生の時に視覚障害者との接し方の授業で、点字について学びました。点字はいろんな所にあり、視覚障害者が普通に生活する手助けになっていて、便利だなと思いました。NHKで手話ニュースを見たことがあります。手話ニュースは聴覚障害者の方でも情報が得ることができ、すごいと思いました。耳が聞こえないとはどんな感じなのだろう、北村さんのような人たちはどんなふうに生活しているのだろう、と疑問に思っていたので、このような講義を受けることができ本当に良かったと思います。

手話は今まで小学校の道徳の時間に少し習った程度で、あまり詳しく知らなかったため今日いろんな言葉の手話や、手話で自己紹介できるようになって良かったです。自己紹介で自分の名前は1文字ずつ指文字で表すのかと思っていましたが、漢字を表す手話もあって驚きました。耳が聞こえない人には、先天性の人だけでなく、後天性の人も少なくないことがわかりました。今まで普通に聞こえていたのに急に音が聞こえなくなるというのは、本当に怖いだろうと感じました。そして以外だと思ったことは後天性の原因は様々で、高熱、薬、注射、事故など、また原因不明の場合もあることです。高熱で耳が聞こえなくなるということは、これから私にも起こることがあるかもしれないので、気をつけたいと思いました。私も将来耳が聞こえない人を相手に仕事をするかもしれないので、上手にコミュニケーションがとれるように今から勉強を少しずつしていきたいです。

◎ 6月1日(火)

「コミュニケーションと手話Ⅱ」

担 当: 伊丹市聴力障害者協会

北村 明子先生

伊丹市登録手話通訳者

山内 滋子先生

◇聴覚障害者の生活

◇指文字・手話実習

《講義の様子》



《生徒の感想》

今日は時間の表現や、数の表現を教えてもらいました。前は挨拶などを教えてもらいましたが、1週間ぶりに行くと忘れていた部分もあったので、ちゃんと使っていけないと思いました。数字の表現はわかりやすく、20、30、40、100、千、万などは難しいだろうと思っていましたが、1~10を覚えると単純でわかりやすかったです。時間経過の表現も未来なら前で、過去なら後ろで、現在はその場という感じでわかりやすかったです。ベルを鳴らしている自転車とぶつかった話や、コンビニでレンジするかどうかを聞かれた時の話など、見た目だけでは耳の聞こえない人とはわからないから、嫌な顔をされると聞いて大変だと思いました。しかし、耳が聞こえないと話すと、皆謝ったり、ジェスチャーで教えてくれたりすると聞いて、そういう時のために手話をしっかりと覚えて使えるようにしておいたほうがいいと改めて思いました。

北村先生は40歳ぐらいから聞こえなくなって、その数年は引きこもっていたと言っていました。私が同じ立場になったら同じように引きこもっていたと思います。私は耳の聞こえない人とあまり接する機会がないですが、コミュニケーションをとる時があれば、口話で伝わるように大きく口を開けて行いたいと思います。身体障害者や目の不自由な人は見た目で見えるので気を遣うことはできますが、耳の聞こえない人は見ただけで判断できないので、様子がおかしかったらそういうことも考えられるので、将来そういうことを考えながら働きたいです。北村先生の「私は不幸な人間ではない。不便なだけ」という言葉を聞いて、私はすごい人だと思いました。普通だったら「なんで私だけ」とか「私はなんでこんなに不幸な人間になったのか」などと、毎日のように思います。しかし、北村先生は「不幸ではない」と言っていて、他人をうらやむようなことなく自分らしく生きていて、尊敬できる先生だと思いました。

今回の講義で自分の考え方を直さないといけないと思ったことがありました。それは「耳が聞こえないからかわいそう」ということです。私も心の中でそんなことを思っていたかもしれません。小中学校の時に耳が聞こえない子がいました。もしかしたら気付かないうちに「かわいそうな子」と思っていた自分もいたかもしれません。しかし、北村さんの表情を見ていたら全然そうは思えませんでした。むしろ私より北村さんのほうが幸せなんじゃないかと思う時もありました。だから、こんなことを考えていた自分がとても恥ずかしいと思いました。

◎ 6月8日(火)

「バイタルサインの基本と看護技術」

担 当:大阪青山大学

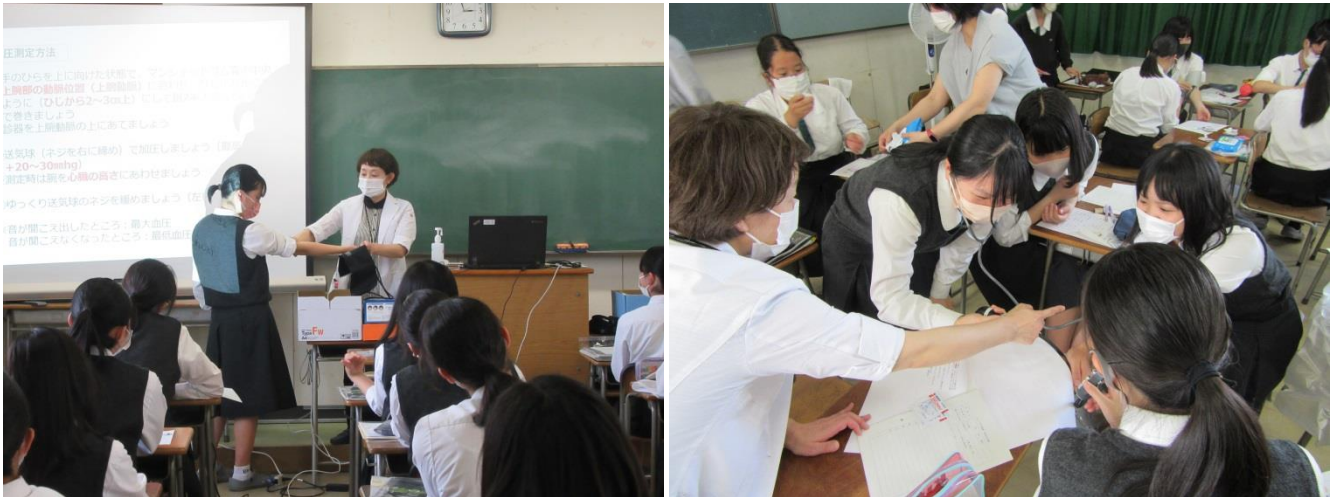
友澤 満地子 先生

◇看護師とは

◇バイタルサインについて

◇看護職とは

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義では初めて知ることや学ぶことが多く、発見や驚きがあり、興味深く楽しかったです。看護師の仕事は、私自身が病院に行って対応してもらう他に、テレビドラマなどでもよく見ていたので少しは知っていました。しかし、血圧測定・体温測定・脈拍測定・呼吸測定の詳しい方法は知りませんでした。特に印象に残っているのは脈拍測定です。動脈を見つけるのはすごく難しく、なかなか見つけれませんでした。もし、このような看護実習を受けることがあった時には、すぐに脈を見つけられるように頑張りたいです。

看護師の仕事は元々大変だと思っていましたが、今日の講義を聞いてより大変だということがわかりました。「病気はケアだけでなく、心のケアも大切だ」、「視覚・聴覚・味覚・触覚・嗅覚の五感を使い、一人一人の環境に合わせたケアを提供する」など、ただ病気を治すためのケアをするのではなく、病気を治すためのケアをしながら、患者さんがストレスに思っていないかなど気持ちのケアも大切だということを知りました。相手のことをちゃんと考えて、思いやりの気持ちがある人でないと看護師の仕事は務まらないと思いました。私は看護の仕事に就きたいわけではありませんが、今日の講義で学んだことは他の職業にとっても大切なことだと思います。

今回の講義を受けて、改めて看護という仕事は人の命を預かり患者さんや病気と向きあいながら支えていく難しい職業だと思いました。身体面でも精神面でも患者さんをサポートするという事は、それだけ患者さんのことを理解しなければならないし、毎日の観察が患者さんの健康維持や回復に繋がるということも学ぶことができました。

看護師というのは人の命を預かるため、本当に大変な仕事だと改めて思いました。患者さんの気持ちをどこまで読み取れるかも大切になってきて、とにかく安心してもらうようにすることが必要だということを知りました。今日は実習も楽しみながら行うことができました。聴診器で人の呼吸を聞いたのは初めてでした。心臓の音が聞こえる場所を探すのにとても苦労しました。実際に心臓の音を聞くと、なぜかとても不思議な感じがしました。測定するのが最も難しかったのは血圧測定でした。脈があるところを探して、そこに聴診器を置き、ゆっくり送気球のネジを緩める作業が本当に難しく3回もやり直しました。今日の実習で多くのことを学ぶことができました。



◎ 6月22日(火)

「赤ちゃん先生 ～育児体験～」①

担 当:NPO 法人ママの働き方応援隊

阪神東校 向井 朋子先生・尾村 佑希先生他

◇ママ講師、赤ちゃん先生の自己紹介

◇ママ講師の出産・育児のお話

◇ふれあい・育児体験

《講義の様子》



《生徒の感想》

今日は「赤ちゃん先生～育児体験～」をさせていただいて一番強く思ったことは、子どもが生まれるって、すごいと思いました。旺太くんのお母さんの話を聞いて、もし自分がその立場だったならばどうしようかといろいろ考えました。しかし、子どもが生まれることは本当に素敵だし、お母さんの愛は本当にいいものだなと思いました。「いろいろあなたたちのお母さんから言われると思うけど、それは愛だからね」と、旺太くんのお母さんが言ってくれた時、その言葉に本当に感動しました。本当に大切な命なのだと思います。私も自分のお母さんに優しくなれるような子に育ちたいと思いました。

律花ちゃんに会う時私自身がとても緊張していたので、最初のうちは律花ちゃんとうまく関わることができませんでした。律花ちゃんはまだ一歳なのに、自分の感情を文章にして表現することができ、また思ったことを自分の口で話すことができたので、一歳の子もってこんなにすごいと改めて実感することができました。例えば、「いや」、「あそこ行きたい」、「自分でやる」など、全部律花ちゃん本人の口からそれらの言葉を聞きました。律花ちゃんと関わって、私がどれだけ親に迷惑をかけていたのかがわかりました。私が見知りですぐに泣いていたからです。次の赤ちゃん先生では、律花ちゃんの身長に合わせた体勢で話しかけること、声のトーンを下げた話すこと、聞き取りやすいスピードで話しかけることに注意して律花ちゃんとの距離を縮めたいと思います。

今回は妊娠と育児について学ぶことができました。妊娠に対して、私は望めばできるものだと思っていました。しかし、パートナーときちんと相談することや、赤ちゃんに対する重みを理解するのが大切なことがわかりました。また、出産の時の安心感や不安によって出産に対する思いが違うなど、貴重な話を聞くことができました。

今回の赤ちゃん先生で学んだことは、赤ちゃんはもちろん可愛いですが、その一方で子育てに大変なことが数え切れないほどあるということです。れいかちゃんが4ヶ月の時、寝かしつけるのに4時間程度かかっていたそうです。私なら正直耐えられないと思いました。寝ない上に泣かれると、メンタルがもたず辛いとお母さんも言っていました。れいかちゃんは今イヤイヤ期で思い通りにならなかったら、はっきりと「いや」と言って泣いていました。でも機嫌が良くなってきて一緒にボールで遊んでからは、とても笑顔を見せてくれて、になって少し会話することができました。最後にはバイバイとハイタッチしてくれた時は本当に嬉しかったです。

6月29日(火) 6限

「ボランティア活動  
～ボランティア活動のススメ～」

担 当:伊丹市社会福祉協議会/  
地域福祉推進室 地域支援課長  
清水 健一 先生

- ◇ボランティア活動とは
- ◇ボランティア活動をする上で気をつけたいこと
- ◇自分らしい活動を始めるために

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義を通して「ボランティア」について学ぶことができました。私の中でボランティアは地域の活動、募金活動、災害支援のイメージが強かったのですが、ボランティアにもたくさんの種類があるということを知りました。講義を聞いていた中で特に印象に残っている活動内容は、両親が仕事をしているため保育園・幼稚園の送り迎えができず通園できない子どもを親の代わりに送り迎えするというボランティアがあるという話です。そして、このようなボランティアをすることが自分の生きがいになっている高齢者の方もいるという話も印象に残りました。誰かのために行動したり、人の役に立つことをしたりすることが自分の生きがいだというのは、とても素晴らしいことだと思います。ボランティアは強制的にするものではなく、自分の意思で行う活動なので、人の役に立つことをしたいという人は本当に周りの方を大切にできる人だろうと思いました。

講義を受けるまで完全にボランティアは「無報酬の奉仕活動」だと思っていました。でも全然違うことに気がつきました。私と同じ考えの人が多いのではと思っていましたが、ボランティアは報酬に着目するのではなく、自発的な行動であることに意味があるとわかりました。また、自分の強みを見つけるのはすごく楽しくて勉強になりました。特にリフレーミングはすごく印象強いです。自分では短所だと感じることで視点を考えて考えると、強みになることを知り驚きましたが、納得できる点もたくさんありました。強みと聞いて最初は人よりずば抜けてできることを探さないといけなかったと思いますが、全くそんなことはなく、ドラマが好きなどちょっとしたことで、自分の強みなることを知ることができました。

私は中学生の時に2回ボランティアをしたことがありました。私が参加した内容は地域行事のボランティアで食べ物を売ることでした。その食べ物を買うためにたくさんの人が並んでくれて、とても嬉しかったことを思い出しました。その時のボランティアは自発的・主体的な意思によって行動することができていたので、ボランティアを楽しむことができたのではないかと思います。私の中でのボランティアのイメージは、誰かのために地域行事や災害のあったところなどで、報酬なしで行動するものだと考えていました。しかし、そうではなく、ボランティアは自分から進んで何かをすることや喜んで何かをすることという意味だということになりました。毎朝登校時に見守ってくれる高齢者の方がいたり、地域行事を進めてくれたりしている人たちに感謝するべきだと思いました。私も将来誰かのために自分から進んで行動することができる人間になりたいと考えています。

◎ 6月29日(火) 7限

「事後学習」

担 当:本校教員

◇ 今まで受けた講義について、各自が書いたレポートをもとに学んだことを発表し、発表者の感想等をまとめた。

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回の発表は期末考査期間中で、時間がなかったり、追われていたりして、100点満点の発表ができたとは言えませんが、周囲に目を配ることを意識して行えたと思えます。次回はもう少し文を増やして時間配分を上手くしていこうと思います。全体を通して、印象に残った言葉を中心に喋っていた人が多くて、それだけ普段の講義を一生懸命聞いているということがわかりました。そして、「以前はこういう考えだったけれど、今はこういう考え方変わった」と、自分を振り返っている人もいて感心しました。私も、もっと自分を見つめ直そうと思いました。

今回私は発表したのですが、あまり上手にすることができなかったと思います。本番では緊張してしまって、練習の時よりも話すスピードや言葉に詰まってしまって、スラスラ話すことができなかったことを反省しています。しかし、ヒューマンで発表する機会が増えて良かったと感じるところもありました。それは人前に立って話すことが少しずつですが慣れてきたのではないかと感じたことです。今まで人前に立つことが苦手で周りの人の反応を見ることができなかったのに、今はみんなの反応を見ることができるようになったと感じたからです。これから発表する機会があった時には、自分が納得できるような文章をまとめる力をつけたいと考えています。今回様々な人の発表を聞いて、自分に足りていない部分を見直してこれから頑張っていきたいと思いました。

今回発表した人の話し方は、前回よりも大きな声で話していたり、ゆっくりと落ち着いて話すことができたりしている人が多いという印象でした。私は発表しなかったのですが、自分の発表ではみんなの良かったことを活かして発表したいと思います。私の中でも一番印象に残っている「赤ちゃん先生」について発表している人が多く、共感する部分も多かったのですが、新しい発見や学ぶこともあったので、意見や感想を聞くことができて良かったです。また、同じ講義でも人それぞれ発見すること、学ぶことなどが全然違うと感じました。ヒューマンタイプの講義や授業を受けた後、このような発表の場が無くて、クラスの人とやったことや学んだことを共有して、いろいろな視点から物事を考え、学んでいきたいです。

同じ講義を受けていても感じ方や考え方が違って、新しい視点から講義を受けていることが今回の発表で改めてわかりました。赤ちゃん先生ではグループ分けして実施したので、他のグループで学んだことを共有できて、とても良い機会になりました。みんなの発表を聞いて良いところが本当にたくさんあり、私の発表に活かしていきたいと思いました。

◎ 7月15日(木)2, 3限

## 「看護とは」

担 当: 大手前大学国際看護学部

堀川 尚子・山本 真理子 先生

※新型コロナのため、4月27日に実施予定だったのを7月15日に実施

- ◇看護師、助産師、保健師、准看護師について
- ◇訪問看護師について
- ◇体圧を測ろう

### 《講義の様子》



### 《生徒の感想》

今回の講義を聞いて「看護」に対する印象が大きく変わりました。看護師はたくさんの人の命を預かっている、自分の中では硬い印象がありました。先生の話聞いて気付いたことは、看護が中心にまわっているわけではないということです。ヒューマン類型対象の福祉の仕事・保育の仕事や他の仕事も必ず誰かに求められています。私の母親は看護師なので、よく仕事が終わった後に患者さんの話や仕事の内容を話してくれます。看護師は人のサポートをする仕事ですが、患者さんとの普段の会話や、患者さんの治療が終わった時に患者さんやその家族に「ありがとう」と感謝を伝えられた時に、やりがいを感じるそうです。今の日本では看護師への需要がすごく高まっています。新型コロナウィルスが流行している状況の中で、休職する人もいれば、必死に向き合っている人もいます。私達が協力できることはウィルス対策を徹底することだと思います。

看護関係の仕事はヒューマン類型に入ってから、少しずつ興味がわいてきている職業なので、今回の講義でより関心が深まったと思います。特に訪問看護についてはほとんど無に等しかった知識が少し理解できたと思います。訪問して実際に看護するのは設備が整っていないから大変だと思います。今高齢者が増える一方で、看護師の数が減っている中、多くの方が安心して暮らせる世の中をつくっていくのはかなり難しいことだと感じました。また、体圧を測る実習ではタオルを間にはさむだけで、体圧が半減することがわかりました。

退院後に日常生活のサポートをする訪問看護師はとても忙しく大変だと思いました。私は今まで、家に来て治療するだけだと思っていましたが、食事や排泄・入浴の手助け・血圧の測定・点滴などの多くの仕事があることを知りました。日常生活の支援をするのはヘルパーさんの仕事だと思っていましたが、訪問看護師はそれらの仕事をした上に治療をするので、病院にいる看護師さんよりも仕事がハードだと思いました。もし私が怪我などをして、1人で生活するのが困難になった時に訪問看護師の方が来てくれて、生活の支援をしてもらえることはとてもありがたいことだと思います。更に、相談や声かけをしてくれると知って、患者さんも気が楽になると思います。患者さんの気持ちを考え、患者さんに寄り添うことができる訪問看護師の方達の仕事を知ることができて、この講義を受けて良かったと思いました。今回の講義で、積極的に人に話しかけること、人のことを優先的に考えることという2つの大切なことを学びました。

◎ 7月15日(木)3限

「分野別研究レポートを作成しよう」

担 当:本校教員

・ヒューマン類型生徒が希望する「看護」「医療」「保育」「福祉」分野について、各自の進路に応じたテーマを設定し、それらについて調べ、レポートにしてまとめる作業を行った。

20～27頁に作品(抜粋)を掲載。

9月14日(火)

「栄養管理が患者の未来を変える」

～医療従事者としてのやりがいとは～

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部栄養学科

井尻 吉信先生

◇管理栄養士とは

◇栄養管理とは

◇利他の心

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回管理栄養士について学んで、今まで知らなかった仕事内容などを詳しく知ることができました。管理栄養士は病院で食事指導をするだけだと思っていましたが、井尻先生の話聞いて、それだけではないということを知りました。私が一番驚いたことは、ICUの緊急医療の場で、管理栄養士さんが働いていることです。医師や看護師だけで治療しているのではなく、栄養の状態を見てそこから治療が始まっていくことを聞いて、管理栄養士の重要さを知りました。動画のおじいさんは、最初手足もやせ細っていてもう亡くなってしまうのではないかと心配していましたが、管理栄養士・看護師・医師・作業療法士の方々が協力して、最後には話している言葉もわかるほど元気になっていました。チーム医療のすごさを知ることができました。

今回は栄養のことについての講義でした。管理栄養士と聞いて、私もみんなと同じように、給食やスポーツ選手に関わっていく仕事だという程度のことしか知りませんでした。今回の講義を聞いていたら、考えているよりも、責任が大きい仕事で、食事のとり方や食べるものによって患者さんの体調が変わってしまうことを知って、「食」は生きていく中で必要不可欠であるということがよくわかりました。動画で見たおじいさんのように、元気に回復していってくれたら、嬉しいし、管理栄養士としてのやりがいを感じることができると思いました。

今回の講義では管理栄養士について深く知ることができて良かったです。主に病院の中でのことについてでしたが、本当に人生を変えていく職業だと思いました。動画を見て、今私たちが普通に口から食べるということが、どれだけ大切なことなのかを改めて感じました。点滴に頼らず、できるだけ自分の口で食べさせようとしている管理栄養士さんがすごくかっこよかったです。講義の中で印象に残っていることがあります。それは、相手の方をしっかりと見て理解をしないと良い指導はできないとおっしゃっていたことです。これは管理栄養士だけではなく、全ての職業に共通していると思うからです。この能力のためにはコミュニケーション能力が必要だと思うので、いろいろな人と関わって高めたいと思います。リモートでは実際の仕事内容や、やりがいを感じる時の話を聞くことができ良かったです。何事にも粘り強く取り組むことの大切さを知ることができました。

◎ 9月21日(火)

## 「介護のためのコミュニケーション」

担当:甲子園短期大学

生活環境学科 木村 弘子先生

◇全員の自己紹介

◇コミュニケーションの意義と役割

- ・人間の理解と人間関係
- ・聞く、話す

◇介護におけるコミュニケーションの展開過程

### 《講義の様子》



### 《生徒の感想》

今回の講義を受けてコミュニケーションの大切さを学びました。私は人とコミュニケーションをするのが苦手で、言葉のキャッチボールが上手にできません。相手にどう思われるかばかり考えすぎてしまうからです。コミュニケーションは相手の気持ちを考えることが大事だと講義で学びましたが、それに加えて自分についても深く知ることが大事だということも学びました。自分の長所や短所を考える時や、自分について発表する時など、すごく悩みます。私はまだ自分についての理解がまだまだ足りないと思いました。自分をもっと高めていくために、友だちや家族に自分について聞いたりしてみたいと思います。コミュニケーションは介護や看護などの仕事のための大切な能力になると思います。

自分が将来どんな職業に就いたとしても、人と関わる上でコミュニケーションは無くしてはならないものだと改めて実感しました。自己紹介した時、皆私の話を聞くだけでなく、うなずいてくれたり、笑ってくれたりして、話しやすい環境をつくってくれて、コミュニケーションは「とる」だけのものではないことを学ぶことができました。木村先生が最後におっしゃっていた「自分の引き出しを増やす」という言葉に凄く感心しました。そして、自分自身としっかり向き合いながら、長所を伸ばしていこうと思いました。

今回の講義で、コミュニケーションは相手を知る上で一番必要なツールだと思いました。コミュニケーションをとらなければ、人間性や価値観、相手がどんな人なのかもわかりません。生きていく上で必要不可欠なものであると思います。今回、コミュニケーションの意義や役割について深く学ぶことができたと思います。自分のことばかりでなく相手のことも考えなければ、相手の思いを読み取ることができません。コミュニケーションは自分と相手がいなくては成り立たないものです。私はいかに相手のことを考え、尊重するのが大切だと感じました。相手と上手にコミュニケーションをとるために自己理解を深めることも大切で、相手に対する偏見や先入観をなくすることが一番必要だと思いました。

◎ 10月5日(火)

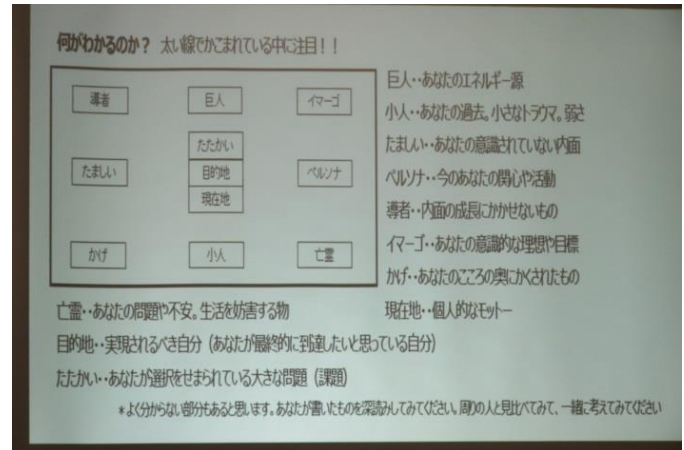
「(子どもを支える)自信を持つとはどういうこと？」

担 当:神戸親和女子大学 文学部心理学科

松本 麻友子 先生

- ◇自尊感情・自己肯定感を高めるには
- ◇仮想的有能感
- ◇教師と生徒の関わり方について

《講義の様子》



《生徒の感想》

私は自分自身にあまり自信がもてていなかったのですが、今回の講義が自分自身にとっても良い影響を与えてくれたと思います。最近のことを考え直してみると、私は自尊感情が少し低かったように思います。高校生になって、特に学業面で人と比べられて負けていて、自分は人より劣ってしまっているのだと暗い気持ちになっていました。今まで様々な経験をしてきて色々な役割をもち抱えきれないほどの仕事があって、何のためにしているのだろう、こんなことをして大人になった時役立つことが本当にあるのだろうかと思っていたことがありました。しかし、こういう経験をしたことで成功や認められたということが記憶にあることで、自尊感情が上がっていくということが知ることができただけで、無駄ではなかったことがわかりました。

いただいたプリントに長所を書き込むのは難しかったのですが、短所は長所より簡単に書いてしまいました。話を聞いてとても共感したことがあります。それは、あまり関わりがなかったり、相手の人と関係性がなかったりする人に褒められても、うまく受け止められないということと、自分がそのように思っていない基準に満たしていない場合は褒められても違和感がある、ということです。例えば自分が絵を描いてそれを見た人に褒められた時、描いたものに自信があれば嬉しくなると思いますが、自信がなかったものを褒められた時は素直に喜べないと思いました。だからこそ自尊感情を高めることが難しいと思いました。また、真の自尊感情を高める時は誰かと比べることなく、自分に自信をもたないといけないうので大変だと思いました。

「自尊感情が高い」や「仮想的有能感が低い」など、自分自身に自信を持てるかどうかは、今までの経験によって変化することを初めて知りました。住んでいる地域や環境が大きく影響することが多いそうです。周り自分を比べてしまったり、ネガティブに捉えてしまったりなど、自ら仮想的有能感を高めてしまっていることもよくあるそうです。それを防ぐためには自分が誰かの役に立っている、自分は認められていると理解・自覚することが大切です。この話を聞いて、私は小中学校で代表委員や生徒会役員を務めていたので、自尊感情を高められるすごく良い経験をしたと思いました。また、現在も野球部のマネージャーとして活動しているので、「誰かの役に立てるように」、「認められるように」努力していきたいです。教師は家族や友人と違い、全員を平等に見て評価するので、教師に褒められたり何かを頼まれたりすることで、自尊感情を高めることに繋がるそうです。だから、教育者になる時には1人1人の個性を理解することが大切だと感じました。



◎ 10月12日(火)

「心肺蘇生法講習」

担当:本校教諭 火縄 智也 先生

◇DVD視聴

◇コロナ禍での救急法

◇実技講習

《講習の様子》



《生徒の感想》

今回は火縄先生が救急救命に関する講習をしてくれました。中学時代にも1回だけやったことがありましたが、その時よりも詳しく教えてもらえました。コロナの関係で少し違うところもあって、色々なことを学ぶことができました。実際に人が倒れたりしたところに遭遇したことがないので、本当に今日習ったような対応ができるか自信がありません、知識があるのとないのでは全然違うと思いました。人形だから何の抵抗もなくできましたが、本当にあんな力で心臓マッサージをしていいのかわかりませんが、一番大切なことは落ち着いて周囲を見ることだと感じました。

今回の講義で一番印象に残ったことは最初に見た動画でした。悲しくなる動画でした。特に印象に残ったのは、実際に録音されていた周囲の人が声をかけているシーンでした。動画に出ていた人たちはまだ若い人が多く、ほとんどの方が急に心停止して亡くなった方々でした。みんな夢があったのに、あの一瞬で夢を叶えられなくなったと考えると心が痛いです。しかし、AEDが普及されてからは今まで救えなかった命を救うことができる可能性が高くなりました。AEDの使い方を学んでおくことで、一人でも多くの命を救えることがわかりました。デモのAEDを使用する前に、胸骨圧迫を体験しましたが、たったの30回だけだったのにとても疲れしました。もしもの場合のことを考えると、救急救命法をしっかりと学んでおくことが大切だと思います。今回のAEDの講義は自分の知識となり、役立ちました。今後もしAEDを使う場面があったら、積極的に行動したいと思います。

今回の火縄先生の講義で、救急車が到着するのに7,8分かかると、伊丹市で1日平均29.6件(16分に1回)救急車が出動していることに驚きました。私も家に居る時に救急車の音を聴くので、多くの方が倒れているのだと感じました。また、居合わせた人が救命処置をした場合としなかった場合の救命の可能性の差に驚きました。それほど周りの人の動きで倒れた人の人生が変わってしまうと知って恐ろしくなりました。私の叔母は看護師で、以前電車の中で倒れた人の救命処置をしたことがあるそうです。その方は無事退院し社会復帰を果たしたとのこと。この話から看護師はやはり凄いと思うと同時に、叔母のことを誇りに思いました。もう1つ学んだこととして、心停止の原因についてです。私の父方の祖父は登山中に急性心筋梗塞で亡くなりました。突然の電話で理解するのに時間が掛かったのを覚えています。登山中のためすぐに周囲の人が気づかなく、またAEDも近くなかったそうです。この講義を通して、父方の祖父とじっくり向き合えたような気がします。ありがとうございました。

◎ 10月26日(火)

「高齢者福祉について」

担 当: 関西国際大学 教育学部教育福祉学科

尾崎 慶太 先生

- ◇8050問題とは
- ◇高齢者の喪失体験とは
- ◇スウェーデンの介護事情
- ◇こども食堂とは

《講義の様子》



《生徒の感想》

現在の日本人口の約29%が高齢者だということに驚き、また、8050問題の記事を読んで心が痛くなりました。もし私の両親が認知症になってしまって介護が必要な状態になってしまったらと考えるだけでごく不安です。私に介護ができるのか、イライラしてしまって親にあたってしまわないか、考えるだけで怖いのです。8050問題のように、誰にも相談や周囲の人に頼ることができずに亡くなってしまう人もたくさんいます。そのような人たちが少しでも減るように、第三者の人たちが行動することが大切だということを知りました。高齢者の方たちがこれから増えていく以上、問題が無くなることは厳しいと思います。そのためには地域の行事やイベントに参加するなど、人との関わりを大切にすることで、少しでも減るのではないかと思います。小さい子どもから高齢者まで多くの人が集まって楽しそうにご飯を食べている「こども食堂」の動画を見ました。「こども食堂」のようにいろいろな年齢の人が集まって交流することは大切なことだと思いました。

今回の講義を聞いて高齢者についてより深く知ることができました。日本は高齢化社会で、これからも高齢化はさらに進んでいきます。私は祖父や祖母と一緒に住んだことはないので、高齢者と普段関わることはあまりありません。しかし、今回の講義を受けて、現在の高齢者の現状などを知り、しっかりと考えていかないといけないと思いました。高齢者の抱える多くの問題を知っておくことで、解決にはならなくても、少しでも減らすことができたらと思いました。

近年では「8050問題」を背景としたケースが多いということを知りました。この問題が同居孤独死と関連していると私は思いました。同居孤独死が起きた背景としては、「介護サービスを利用しなかったから」、「周りの人との関わりをもっていなかったから」、「一人で抱え込むことが多かったから」などが問題だったのではないかと思います。同居孤独死を少しでも減らすには、高齢者の方々が介護サービスに頼り、近所の人との交流を大切に、病院を受診するなどが対策として必要になってくると思います。昨年生まれた子どもの人数は90万人を下回ったと聞き、ますます少子高齢化社会が進んでいっていると、改めて思いました。これから介護施設がより大変になっていくのが目に見えています。施設が満員で入れない高齢者は在宅介護になりますが、それが家庭内の問題になっていくのではないかと思います。家族の負担が増えてきて、今後それらのことが問題にならないか心配です。

◎ 11月2日(火)

「赤ちゃん先生 ～育児体験～」②

担 当 : NPO 法人ママの働き方応援隊

阪神東校 向井 朋子先生・尾村 佑希先生他

◇ママ講師の出産・育児のお話

◇ふれあい・育児体験

◇母親のキャリアプランについて

◇感想シェア

《ふれあいの様子》



《生徒の感想》

2歳になってできるようになったこと、「たくさん走るようになる」、「歌をたくさん歌うようになる」、「真似をするようになる」、「両足でジャンプする」、「靴の紐を結べる」、「自分で服のボタンをとめる」など、たくさんあるそうです。それを聞いて5カ月の間に、こんなにもできるようになることがあるのだと驚きました。保育園・幼稚園に通い始めると、できることが更に増えるのだらうと思いました。私は結婚・子育てしないで、働きたいと思っていましたが、子育てをしながら働くという話を聞いて、そのような人生も幸せなのだろうと感じました。また、最近は産休・育休を取って、子どもが大きくなったら社会復帰する人が多いそうです。それを聞いてすごく良いことだと思いました。女性も子どもが産まれてからも、働くことができる社会になってきていることを感じました。

私は赤ちゃん先生（育児体験）をさせていただいて本当に良かったです。私の身近には自分より年下の子が居なくて、なかなか赤ちゃんに関わったり、いろいろな話を聞いたりする機会もありません。この2回の赤ちゃん先生を通して、妊娠の時のこと、子育ての大変さ、お母さん自身のことなど、本当に多くのことを教えていただきました。お母さんがしてくださったお話の中で印象に残ったこととして、子どもができて良かったことを質問した時に「先が見通せなくなったこと。何があるかわからないから、毎日がサプライズ」と話していたことです。私は先が見通せなくなったり、何があるかわからなくなったりすると、不安を感じると思っていたのですが、お母さんは毎日がサプライズという考え方をされていて、そういう考え方あるのかと思いました。

何よりも赤ちゃんの成長のスピードに本当に驚きました。前回ではつかまってやっと立ったり、初めて今自分で水飲めたと言っていたりしていたぐらいだったのに、たった半年の間に1人でスタスタ歩いたり、小走りまでしたり、泣く・笑うだけではなく怒って何かをねだったり、家ではすねたりすることもあるよと聞いて、そんなに成長がはやいのかと思いました。同じ半年でも私は髪が伸びたぐらいなのに、赤ちゃんはまるで別人のように変わっていて、まるで違う時間を過ごしたのかと、思うほどでした。また、前回では家での育児に精一杯と仰っていたのに、今回は「今から保育園の準備に行くのよ」と話していて、環境のも大きく変わっていました。前回では車のおもちゃを食べたり投げたりしていたのに、今回1歳を過ぎると同じ車のおもちゃの車輪を回したり走らせたりして、遊び方をちゃんと理解して遊んでいるように見えました。見た目の変化だけではなく、考え方も変わっていて、赤ちゃんが子どもに成長していているのを感じました。

◎ 11月9日(火)

## 「医療の仕事について」

担当:森ノ宮医療大学保健医療学部  
石塚 充弘 先生

- ◇医療職の種類と仕事
- ◇チーム医療について
- ◇理学療法士とは・作業療法士とは
- ◇医療職に求められるもの

### ≪講義の様子≫



### ≪生徒の感想≫

今回の講義聞いて最初に感じたことは、看護医療の資格としての魅力や仕事としての魅力は良いことだらけのように聞こえるけれど、ミスが許されない世界だという厳しい面もたくさんあると感じました。それでも、手に職をつけることは大きな強みだと思いましたし、やりがいのある仕事であるということもあって、私は興味をもつことができました。私が患者だったら、どんなに明るくて優しく話を聞いてくれても、知識と技術がない人は嫌だと感じました。1年目でも20年目の先輩に負けないように日々学んでいくのは大変ですが、患者さんの気持ちを考えたら頑張らないといけないと思いました。相手の立場に立って物事を考える力が大切だというのがわかりました。医療者として単なる技術者ではなく、患者さんとしっかり関わることができる医療者になりたいと思いました。

今回の講義を通して医療の仕事について、いろいろなことを知ることができました。石塚先生のお話で印象に残った言葉が2つありました。1つ目は看護医療の仕事の魅力の中で「病める人を救うことができる」仕事ですが、「人の命を奪う可能性がある仕事でもある」という言葉です。医療の仕事は人の役に立てたり、誰かを救うことができたりすることができる仕事ですが、ミスが許されないと聞き、軽い気持ちで「人を救いたい」ではなく、責任を持たないといけない仕事だと実感しました。やりがいがある仕事とは、責任ある仕事なのだと思います。2つ目は「医者は患者さんを選べるけど、患者さんは医者を選べない」という言葉です。患者さんの立場で考えると、自分の気持ちを理解してくれて話しやすく明るい先生だと嬉しいと思います。自分が看護師になることができたなら、患者さんにこの人で良かったと思ってもらえるような人になりたいと思いました。

今日は医療のことについていろいろな話をさせていただきました。医療の仕事は資格を持っておけば大きな強みになるとおっしゃっていて、母も同じことを言っていました。1度仕事を辞めても、もう1度同じ仕事に就くことができ、安定した収入を得ることが魅力だということです。私もそう思います。しかし、人を助けるといって看護師になっても、言い換えれば人の命を奪う可能性があるとも言えるので、プレッシャーを感じることも多いそうですが、患者さんに「ありがとう」と言ってもらえることにやりがいを感じ、生活をしていくために働いているが、得るものはお金だけではないと実際の看護師さんが言っていたそうです。医療は急速に発達・高度化しているので看護師は一生勉強をしなければならなくて、新人は先輩に追いつけるぐらいの技術の習得の勉強をしないといけないと言っていました。私に一生その勉強がきるかどうかが心配になりました。

◎ 11月16日(火)

「保育の内容について」  
～環境指導と健康指導～

担 当: 聖和短期大学  
持田 葉子 先生

- ◇保育における「指導」の意味
- ◇保育内容 5領域とは？
- ◇保育内容「環境」・「健康」について

《講義の様子》



《生徒の感想》

今まで保育士についての講義は受けたことはありましたが、「指導」について目を向けたことはあまりなかったもので、新しいことがたくさん知ることができて良かったです。指導には環境指導と健康指導の2種類がありました。子どもにとっては全てのことが初めてのことなので、興味関心をもったことに対して否定せずに、良いことも悪いことも経験させてあげることが周りにいる大人とか保育者の役割で、その中で成長を認めてあげたり見守ってあげたりすることが大事なのだとわかりました。私は何でも自由にやらせてあげることが子どもにとって一番なのかと思っていましたが、保育者側もねらいをもって接して、それに当てはまるような環境づくりも必要なのだということがわかりました。

今回は保育についての講義でした。私が現在進路先として考えている聖和短期大学の先生の講義だったので、聞いていてとても興味が湧きました。保育における環境についての話でした。ドングリを拾ったりいろいろな草や木の実の写真を見たりして、とても懐かしい気持ちになりました。私も幼稚園の帰り道で、シロツメグサで花の冠を作ったり、ツツジの蜜を吸ったり、色水を作ったりしてよく遊んでいました。室内遊びよりも、水遊びや砂遊びなど、外で遊ぶことが好きだったので、今日の講義に出てきた植物の名前や、遊び方は結構知っているものが多かったです。何かしらの遊びには遊具や素材が必要です。積み木や人形、段ボール、クレヨンや粘土など、楽しみながら物の性質や特徴を感じて理解していきます。1つのものから多くの遊びができるし、遊びを自分で考えたり生み出したりする子ども達はすごいと思いました。

今回の講義で保育には環境が大事だということがわかりました。環境が整っていないと子どもが自発的に遊ぶことができないし、それを通して学ぶことができないからです。例えば、園庭を工夫することで四季を感じるができたり、植物に触れて遊ぶことができたりすることがわかりました。枯葉1枚でもスタンプにしたりお面にしたりして、工夫すればたくさん遊ぶことができることに驚きました。私も小さい時にした植物の栽培活動はただ育てるだけでなく、育てたものを食べることで食育につながっていると感じました。健康の目標を達成するためには、環境造りがいかに大切かと思いました。その理由は、運動や身体発達や基本的な生活習慣・安全への意識をもつためには、環境を整えることが必要だと思ったからです。

11月30日(火)

「事後学習」

担 当:本校教員

◇ 今まで受けた講義について、各自が書いたレポートをもとに学んだことを発表し、発表者の感想等をまとめた。

《講義の様子》



《生徒の感想》

みんなの事後学習を聞いて、私も多くの学びがありました。「赤ちゃん先生」について話している人が多かったです。みんなの発表を聞いている中で驚いたことがいくつかありました。1つ目は1人1人担当の赤ちゃんやお母さんが違うはずなのに同じ話題がほぼ全員にあったことです。それは将来の夢は無理に決めなくても、その時やりたいことが見つければそれに向かってゆっくり頑張れば良いということです。私の担当だったお母さんも同じようなことを言っていました。大人になって違う職業をやりたいと思うことがあるのだと思いました。2つ目はどの赤ちゃんも身体だけでなく性格も成長していることです。赤ちゃんの半年はとんでもなく成長のスピードが速く、濃いということがわかりました。

今回の事後学習で、1人1人感じ方、考え方、捉え方が違うということを感じました。同じ講義を受けていても印象に残ったことは違って、そういう考え方があるのかと気付くことができました。私は前回(1年生の時)の事後学習よりも、今回、緊張が少なかったように感じました。人前で話すということに少しは慣れることができたのかと思います。しかし、途中で話したいことがわからなくなって原稿を見てしまったり、無言の時間ができてしまったりと改善すべきところがありました。次回に向けて改善したいと思います。今まで多くの講義を受けてきて、自分の将来のためになる知識や働く上で大切になることなど多くのことを学ぶことができました。私はまだ行きたい大学を決めていませんが、自分で調べ学びたいことを考えて決めていきたいと思っています。ヒューマン類型でしか学べないことや受けられなかった講義だと思うので、ヒューマン類型に入って良かったと思いました。

私は今までの講義を通して、大切だと思った2つのことを話しました。それは、「視野を広くすること」、「たくさん経験すること」です。講義を通して学んだことは社会に出ても必要なことだと思います。多くの人が社会に出てから気付くことに、今気付けたことは大きいと思います。ヒューマン基礎で学んできたことは、その道に進まなくてもどこかで役に立つと思います。今回発表した人の話を聞いても新たな発見がありました。以前の講義で忘れていたことを再認識することもでき、自分と違う捉え方をしているものなど、いろいろなことを改めて学ぶことができました。残り少ないヒューマン基礎での授業一つ一つを大切にしていこうと思うことができました。

皆それぞれ学んだことや感じたことを発表していましたが、思っていることは全員違って、同じ講義を受けていてもそこから吸収することは十人十色だと思いました。将来の夢が決まっている子も決まっていない子も「自分の将来に向けて学んだことを活かしていく」と言っていました。その通りだと思うと同時に「どんな風に活かしていくか」も考えていけないと思いました。今回の発表の中で、「視野を広げること」と「選択肢がある＝様々な職業に就ける」ということが特に印象に残りました。

◎12月21日(火)

ディベートⅠ  
「ディベートとは」

担 当: 本校教員

◇「ディベート」の概要説明・演習

◎ 1月18日(火)

ディベートⅡ  
「経験してみよう、ディベート」

担 当: 本校教員

◇次回のディベートのための準備

—論題(テーマ)別に分かれ、班編制を行い、ディベート用のデータ等を集める—

◎ 2月1日(火)

ディベートⅡ  
「経験してみよう、ディベート」

担 当: 本校教員

◇ディベート実践

「レジ袋は有料化するべきである」

「日本でも積極的安楽死を法的に認めるべきである」

「日本(文科省)は教科書をタブレットにするべきである」

《ディベートの様子》





### 《生徒の感想》

今回のディベートの授業で学んだことは2つあります。1つ目は自分が伝えたいことや思ったことを相手に理解してもらう難しさです。ヒューマンの授業で前に出て発表したり、今回のようにディベートという形で自分の意見を自分なりに発表したりするということは、ヒューマンタイプの私たちにとって面接をスムーズにこなすための練習だと思いました。今回私はタイマー係でディベートに参加しましたが、次にこのような機会があれば主張する側に立って、自分の意見を相手にうまく伝える難しさを体験したいと思いました。2つ目は前に立って発表するときの姿勢や目線の大切さです。皆の前に出て意見を発表するとき、大切なのは態度だと思いました。目線を下にして声が小さい人の意見より、声が大きくハキハキ話して目配りしている人の意見の方が説得力があり、聞いていて飽きないと思いました。

初めてディベートをしました。私は今回班長だったので発言することはありませんでしたが、同じ班の人や他の班の人など皆話すのが上手で、肯定側・否定側どちらの意見にも共感できました。今回の題目はどれも難しく、班の皆で調べても意見をまとめるのがとても大変でした。立論は考えられてもそれに対する質疑がどうきて、それに対してどう答えるべきかなど、考えたことの裏のことを考えるのが大変でした。いざ人前に出てこのような発表をすることは緊張するし、難しいことです。その時その場で話すことをまとめることは難しく、上がってしまって言いたいことは違うことを言ってしまうたり、自分で言っていることがわからなくなったりしてしまうと、発表した子が言っていました。それを聞いて、これから大人になっていくとこのような状況が増えてくると思います。私は将来教育者になりたいので、正しいことを子ども達に伝えていかなければいけません。子どもは何をするかわからないので、その場で対応する力を今のうちにつけていかないと、今日のディベートを通して思いました。

今回私たちの班では積極的安楽死についてディベートをするために調べ学習をしてみて、肯定側の意見も否定側の意見も両方共感できました。私たちは肯定側の立場だったので、とても難しく感じました。私は反駁する役でしたが、相手側の立論に説得力があり、難しかったです。このディベートの授業で私に足りないと感じ、力をつけたいと思ったことがいくつかあります。1つ目は話す技術をつけたいということです。時間いっぱい話すことができず、わかりやすく話すことができなかったからです。2つ目は人の意見を聞いて、しっかりとした自分の考えを持つということです。今回のディベートでは、班の人の意見に助けられました。もう少しはっきりとした自分の意見があれば、聞いている人に伝わりやすかったのではないかと思います。

ディベートを実際にしてみて、あらゆる情報から自分なりにまとめ、肯定側・否定側と与えられた立場から意見を出していくことが思っていたよりも難しかったです。また、自分たちの立場だけでなく、立論を話したらどのような質問をされるのか、またどのように反駁されるのか、逆にどんな立論があって質問をどうすれば良いかなど考えなければいけないことも多く大変でした。実践したときは緊張もあり、声が小さくなってしまったり、自分の意見がしっかりまとめられているか不安になったり、時間が余ってしまったりと反省点がいくつかありましたが、相手の意見を聞きながらすばやくメモし、準備時間や作戦タイムを効率よく使うことができたと思いました。

今回ディベートをして多くのことを学ぶことができました。自分の考え・意見とは違う立場で話すにはたくさん調べ学習をしないと行けなかったり、皆を説得することができるような説明をしないと行けなかったり、多くのことを学ぶ良い機会となりました。また、今回学んだことは、将来絶対必要になってくると思いました。



◎2月3日(木)6限

「進路実現に向けて」

担 当： 本校進路指導部教員

◇大学選びについて

◇入試について

≪ 講義の様子 ≫



≪ 生徒の感想 ≫

私は現在看護師になりたいと考えています。いろいろな仕事がAIにとられていく中で、看護・医療・保育など人と関わる仕事は、人間にしかできない仕事として将来残っていくと思います。仕事もたらす「4つの喜び」の中の「お金をもらう喜び」、「人に感謝される喜び」は、まさに私が看護師を選んだ理由でもあります。生活していくために働いてお金をもらうのであり、お金がないと生活していけません。看護師は収入が安定していて自立もでき、資格を持っていたら再就職もできるため魅力を感じました。自分の道を考えるポイント「社会や誰かに貢献しているか」、「興味だけでなく使命感を感じるか」、「その道を選んで家族を支えられるか」、「能力・適性があると感じられるか」の全てが今の私には当てはまっていないと思いますが、看護師は今のコロナ禍の状況では患者さんだけではなく医療従事者として、社会に貢献していると思います。私は看護という仕事に興味はありますが、使命感を感じられていないので、任されたことを果たそうとする気概と責任感で、任された仕事はもちろん、自分で率先して動くようにしたいです。

今日の講義で進路について進路について考えることができました。私は看護師を目指しているので、医療系の職業についての話が印象に残りました。先生のお話の中で「人の生命に直接関わる職業だから、正確で深い知識が要求される」という内容がありました。このことを聞いて改めて人の生命が関わってくる職に就くということは、それなりの勉強が必要で簡単なことではなく、とても大変なことだと感じました。また、先生が「ただ保育士になりたい。看護師になりたい」というだけではなく、その職業に就いてどんなことがしたいのかが大事とおっしゃっていました。この話を聞いてもっと自分の夢と向き合ってどんなことをどんなことをしたいのか、どんな人になっていきたいのかも、考えないといけないと感じました。

私は今日の話聞いて入試はまだ先だと思っていましたが、もう私たちの番なのだと思感をもつことができました。早い人は6月からエントリーが始まるので、後4ヶ月くらいしかないという焦りを感じました。話の中で聞いた自分の道を真剣に考える4つのポイントを聞いて、本当にこの道でよいのかをしっかりと考えたいと思いました。これから私がやらないといけないと思ったことが2つあります。1つ目はニュースを見て自分の意見を考えるということです。面接で興味のあるニュースを聞かれた時、何でそのニュースなのか、そのニュースを見てどう思ったかなどを具体的に答えられるようにしたいからです。2つ目は本を読むということです。今まで私はあまり本を読んでいないので、小論文や面接、志望理由書を書く時に困ることがないようにしたいと思ったからです。面接や志望理由書では学力だけではなく、その人物の人間性や適性を確かめているということを知って驚きました。面接でどんな質問をされても、自分の意見をはきはきと話せるようにしたいです。

◎2月3日(木)7限

「総合ヒューマン類型としての心構え」

担 当:3年2組担任 山崎先生

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義で多くのことを知ることができました。私は保育系の4年制大学の教育学部に進みたいと考えています。まだ全然調べておらず、いつ入試なのかわからなかったので、保育系の大学入試が10、11月くらいと聞いて驚きました。夏休みを過ぎるともう入試だと考えたら、今から勉強しないといけないと思いました。入試で一番大切なのは面接と志望理由書だと中学校でも教わりました。しかし、高校入試と大学入試の志望理由書は同じではないと思います。中学の時に志望理由書を何回も書きましたが、あの時以上にたくさん練習しないといけないと思いました。面接でヒューマン類型のことを話すと、ポイントが高いと聞いて、改めてヒューマン類型で良かったと思いました。

今回改めてヒューマン類型としての意識が高まった講義で良かったです。看護師希望の人は10、11月頃に進路が決まるとおっしゃいました。今2月なので、もうそろそろだと実感してきました。学年末テストで良い結果を出さないと行きたい進路に行けないので、頑張ろうと思います。ヒューマンの話が面接に使えるとおっしゃっていたので、自分も面接の時に使いたいと思います。ファイル提出で今までの講義を振り返ると、本当に貴重な経験をさせていただいたのだと改めて思いました。

なかなか3年生の先生のお話を聞く機会はないので、今日山崎先生のお話を聞くことができ良かったです。目指す進路によって受験が早いということは知っていましたが、夏休み前から始まると聞いて驚きました。志望理由書を書くために、その大学に関する知識を増やしておくこと、進路先に見合ったニュースにアンテナをはって準備しておくことなど、大切なことをたくさん教えていただくことができました。このヒューマン類型に入ったからこそ体験することができたことや、聞くことができた講義もたくさんあったので、今までのレポートを見返したりして、特に印象に残っていることを考えようと思いました。

実際に先輩の体験談を聞くことができ、今まで以上に受験への緊張感が高まったと思います。部活動をしていない分、他のことを頑張らなければいけないと、改めて思いました。中学の時、英検をとってから満足してしまっていたので、3年生になったら検定がとれるくらい勉強しようと思いました。今までの定期テストの勉強ももちろん大切だけど、それに加えて受験を意識した勉強にも取り組んでいきたいと思いました。

今日の授業の中で「進路について考えているか」と聞かれました。中学3年生までは将来自分が就きたい職業が明確に決まっていた。しかし、高校生になって総合ヒューマン類型の中で様々な職業について学ぶ中で、知らなかった職業だけではなく、知っていた職業の中で知らなかった仕事の内容を知っていくうちに、本当にやりたいことがわからなくなってしまいました。先生には自分の好きなことに関連した仕事に就いたら、長く続けることができると言われました。将来の夢に向かって努力しているクラスの人たちに比べてモチベーションが無いけれど、今は大学受験に向けて出発しなければなりません。今、たくさんの努力をして、今しかできない勉強に一生懸命取り組み、充実した人生を送れるように頑張っていきたいです。今回この講義を聞き、気を引き締めることができたので良かったです。

◎2月8日(木)

「1年間を振り返って」

担 当： 本校進路指導部教員

《1年間の反省・感想・印象に残ったこと》

私はこの1年間でたくさんのことを学び、多くのことに気付くことができました。その中で一番学ぶことが多かった講義は森ノ宮医療大学の講義です。私は昔から看護師になる夢を持っていましたが、少し看護師の仕事を手甘に見ていたことに気づかされ、それと同時にやりがいも見つけることができました。その講義を聞いた時に印象に残っている言葉があります。それは『生涯勉強』という言葉です。看護師の仕事は『生涯勉強』という言葉があるように、看護師という仕事をしている限りは一生勉強しないと行けなくて、ゴールがないことを知りました。そのことがわかってから心が折れてしまい、将来の夢は自分の好きなことをするという夢に変更して、ゴールを目指して頑張ろうと思いました。

1年生の時にヒューマンに途中から入っていくか、とても迷いました。教育・保育・看護などに特化して学ぶことはすごく魅力でしたが、夢が決まっていなかったのにヒューマンに入って大丈夫か心配でした。しかし、今はヒューマンに入って本当に良かったと言えます。将来について嫌というほど考える機会があったおかげで、自分が興味のある分野や、本当に自分がやりたいこと、最終的にはやりたい仕事も見つけることができました。ヒューマンでの授業を通してレポートを書いたり、発表したり、自分が苦手なことについても力がついたと思います。

1年生の時の講義に比べて、2年生になってからの講義は看護・医療・保育・福祉の分野だけでなく、色々な分野の講義を受けることができ、自分にとってとても意味のある1年になりました。特に栄養や心理学についての講義が自分の中で強く印象に残り、進路に向けて役立つものとなりました。今まで正直言ってヒューマン類型の講義で新たな興味が湧くことがありませんでしたが、初めて心理学の講義を聞いて興味が湧き調べるようになり、心理学が学べる大学にオープンキャンパスへ行こうと考えています。

私はこの1年間ヒューマン基礎の講義を通して、1年前より看護・医療・教育・福祉どの分野に関しても知識が深まったと思います。それらの仕事内容についてはもちろんですが、それらの仕事に就くために必要な資格や、就くために必要となる心得などをヒューマンの講義を通して学ぶことができたことがたくさんあり、自分自身の進路を考える面で視野が広がったと思います。特に大阪樟蔭女子大学の井尻先生の管理栄養士に関する講義で、病院で働く管理栄養士とその病院の医師や看護師の方たちが協力して患者さんをサポートするチーム医療を映像で見た時に、その姿に憧れるとともに、管理栄養士は医療現場でも患者さんと積極的に関わったりするという新しい発見もありました。私にとって管理栄養士に対する新しい見方が生まれた講義であり、とても印象に残っています。

私はこの1年間で将来の夢をはっきり決めることができました。小学6年生の頃から保育士になりたいという夢がありましたが、様々な講義を受けた上で改めて保育士になりたいと思いました。一番印象に残っている講義は「赤ちゃん先生」です。赤ちゃんは可愛いけどその一方では、子育てが本当に大変で、数え切れないほど辛いことがあることがわかりました。しかし、その辛い分子どもの成長が見られた時や、子どもが笑っている時、辛かったこと全てを忘れられるくらいの幸せを与えてくれると聞きました。その話を聞いた時、子どもの成長を近くで見ることができ、多くの笑顔や幸せを与えてもらえる保育士になりたいと改めて感じました。

総合ヒューマン類型に入って約1年以上が経ちましたが、今では本当に入って良かったと思っています。なぜなら、ヒューマンでしか学ぶことができないことを経験できましたし、進路希望の保育系の講義を受け、学校見学をさせて頂いたことで、3年生ではないのに受験が少しずつ近づいていることを実感でき、どこの大学に進学するのか、本当にこの分野でいいのかを考えるきっかけとなったからです。私は「子どもが好き」という理由だけで保育系に進みたいと考えていたので少し不安でした。しかし、他の分野の講義を受けて、やはり保育系に進みたいと思うことができ、一番印象に残っている赤ちゃん先生で、直接赤ちゃんを目で見て成長した姿を感じられたことで、さらに気持ちが強くなった気がします。

私は1年間講義を受けて、大きく成長したと思います。それはレポートを書く力や、皆の前で発表する力です。ヒューマン類型に入るまでは、そういう機会がなかったからです。一番印象に残った講義は赤ちゃん先生で、コロナのため赤ちゃんを抱っこすることはできなかったですが、本当に可愛くて楽しかった講義でした。

## 《来年度に向けての意気込み》

---

来年度は受験生になって、勉強ばかりで大変だと思います。勉強は嫌いですが、志望校に合格できるように頑張ろうと思います。今は進学したい大学が決まっていないため、モチベーションも低いので、早く進学したいと思える大学を見つけたいと思います。

---

来年度は教科全般を頑張るという目標を掲げて、今からできることをしようと思いました。今まで全ての教科に力を入れていたので、8割か9割程度の点数でした。これからは全ての教科9割とれるようにして、進路に悩んだ時に良い成績だと進学の幅が広がると思うので、そのために今から頑張ろうと思いました。

---

人前で緊張しすぎないようにしたいです。事後学習での先生からの評価をもとに、より質の高い発表ができるようになりたいです。それは入試の面接でも絶対応用できることだから、受験を意識して授業を受けたいです。物をすぐになくすなど管理能力が甘すぎると気付いたので、改善していきたいです。できるだけ早く志望校を決めて、それに合った勉強に取り組み、評価を0.1でも上げられるように頑張りたいです。

---

これまでのヒューマン類型の講義を通して培ってきたことを活かせる1年にしていきたいです。来年は入試があるので、それまでに少しでも評定平均を上げたり、読書をしたり、苦手な科目を克服して入試に向けて心構えを整えていきたいと思います。自分の進路先が早く決まっても、遅く決まっても、周りの人たちのことを思いやった生活を心がけたいと思います。

---

私は今何もない状態だと思います。勉強も「今回頑張る」と、毎回言っています。自分で気付いていても、頑張っていないと思います。「またこいつ言っているわ」と思われても仕方ないと思いますが、今の私にはとりあえずこの学年末考査を頑張るしかありません。今は進路以前の問題の状態なので、3月から先生としっかり進路の話ができるように本気で頑張りたいです。

---

3年生では受験が控えているので、2年の今の内からできることを全力でやっていけるようにしていきたいです。そして、3年生の入試本番で自分の力を100%出すことができるようにしたいです。このクラスは他のクラスと違い、1年間同じメンバーでやってきたので、他のクラスより団結力を高めて、皆が皆を応援できるような空気を自分から出していけるようにしたいです。

---

私は短期大学に行こうと考えているので、他の人よりも受験が早いので、周囲の人の受験勉強のスピードに流されていると、私は間に合わないことがわかりました。「周りがまだだからいいや」ではなく、「自分は自分」なので、誰よりも一歩先に勉強をするという意気込みで頑張りたいと思います。受験は乗り越える壁になりますが、それを乗り越えると夢に一歩近づくということなので、将来の夢を実現するためにも大学受験を頑張りたいです。

---

3年生になったら今よりさらに受験への意識を高めなければなりません。私は私立短大志望なので、どこを受験するにしても高い割合で面接や小論文があります。私は話すこと、文章を書くことがとても苦手です。だから、面接練習や小論文練習に徹底的に取り組みたいと考えています。そして、新聞やニュースをたくさん見て、時事問題にも答えられるようにしたいです。

---